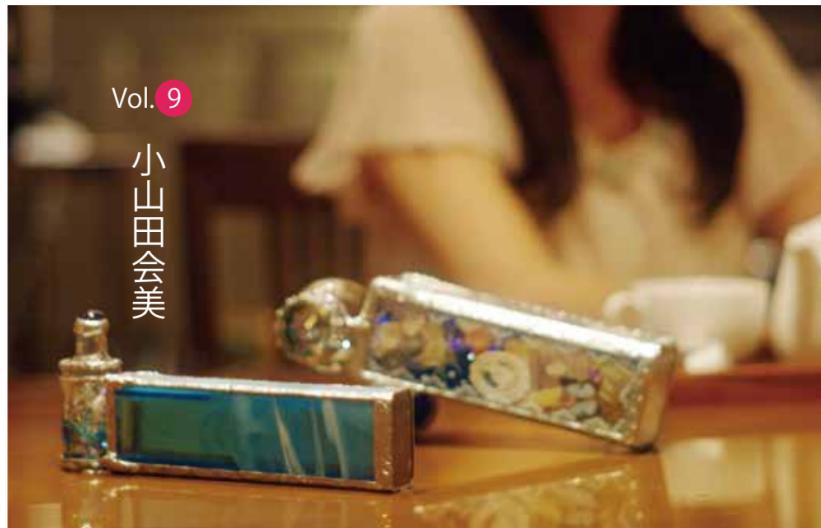


気になるフィオーレ喜連川人



可能性は無限大～

知られざる万華鏡の世界

誰でも一度は遊んだ記憶がある万華鏡。千代紙をあしらった筒の小さい穴を覗くと美しい模様がぱつと花開く。今回ご紹介する小山田会美さんは万華鏡に魅せられ、ついには自分でそれを作ってしまった。彼女の作品は「スエッ?!」これが万華鏡?!と思わず声をあげてしまうようなものだ。筒の部分はステンドグラスの技法を駆使しており、筒の先端には小さなボトルのようなものが取り付けてある。それを覗き穴から見ると、まるでボトル本体を回すと模様が変わる。よく見ると中には小さなおもちゃのフォークとナイフも入っていて、覗いた先にそれを見つけたと何だか嬉しくなる。その他にもボトルの栓の部分には光の当たり方で色が変化する特殊なガラスをはめ込んであるなど、作品のどこをとっても女の子がキュンと心ときめく工夫が散りばめられている。万華鏡は、色、素材、技法どんなものでも素材になり自由度が高い。特に覗くものにおいてはどんな些細なものでも美しく見える。だからこそ作り手の個性が作

品に反映され、無限に可能性が広がる。「日本でも海外でも万華鏡作家はいますが、こんなにちがうの?と驚く程色々なタイプの作品があります。覗く仕掛けに面白さを感じている人もいますし、万華鏡の見た目にもすごくこだわっている人もいます。(ある作家の)シャボン玉の表面の七色の膜を覗く作品があつて、その発想に衝撃を受けました。そして覗いた模様が本当にきれいなんです。わたしが万華鏡を作る場合はいつもテーマを決めています。(テーマの)アイデアが思いついたらすぐ書き留めておきますが、その中から決めて、たとえば『アラビア』というテーマだったら自分が思うそのイメージを万華鏡に詰め込みます。テーマになるものはやはり自分が影響を受けたものやこれやりたい!と思うものがほとんどですね。会美さんはもともと大学で音楽を専攻していた。万華鏡とは何の関連もないように思えるが、自身がつつと培ってきた感性を万華鏡に反映させることは多いそう。たとえばクラシックの楽曲に触れているうちに芽生える曲のイメージがそ

うだ。「音楽に対して自分自身が持つ抽象的なイメージをきちんと(万華鏡として)形に残すことができたときは本当に楽しくて、特に作っている間は本当に楽しいです。出来上がってみて『アレ?イメージと違う。』と思うことも多々ありますけど、笑っちゃうくらい音楽もそうですが無駄な経験や技術はひとつもないです。万華鏡のもうひとつの大きな魅力は覗く者によって世界が変わるといふ点。小さな穴から覗く世界は回す度に違った表情を見せて、宇宙が広がるように大きなものとなる。「見る角度や光の当たり方で、自分なりの見方を探せるのが万華鏡の醍醐味ですね。今見ているこの模様がすごくステキだと思っても、一度と同じものを見られない儚さとか、その一瞬が覗いている人だけのアートなんです。今はほとんど進化しているから、見て驚いて、覗いて驚いてそれだけで楽しい時間か過ごせると思います。」作る者も見る者も楽しめる万華鏡。あなたもその知られざる万華鏡の世界に酔いしれてみてはいかがだろうか?

記事：大河原千晶



画像と共に格子状に配置された記事。楽しく情報をキャッチできそう。

可変型のレイアウトで、ウインドウサイズによって列の数が自由に变化。



フィオーレ内の事業者を応援。クリックでホームページにジャンプ。

フィオーレに新ホームページ開設

フィオーレ喜連川の情報を発信するローカルコミュニティサイトが新たに開設されました。このサイトは、管理組合や自治会のニュース、イベント情報、サークル活動などフィオーレに関連したニュースを発信するサイトで、FIORE DIGITALが運営を行います。

fiore-kitsuregawa.com



フィオーレ喜連川は、温泉日本より開発された温泉村静かな地で、1992年より温泉が開発されました。その名の通り、色とりどりの花が咲く美しい温泉村が、自然の豊かな環境です。

CATVや広報紙とは違い世界中からアクセス可能。地域の魅力を外へPR。



フィオーレ内外のイベント情報も掲載。町を超えて市全体を活性化。



住民発信のニュースが掲載される事も。



左側のメニューからそれぞれの概要やお問い合わせページへ。

10月18日 松の祭典開催

10月18日(土)に、杉インテリア木工館(旧穂積小学校)で、松の祭典が開催されます。このイベントは、栃木名木百選に選出されている推定樹齢150年を超える学校記念の松をPRするために企画されたもので、松とその下のステージで繰り広げられるショーなどを楽しめます。当日は、海外でも多数の公演実績を持つファイヤーパフォーマンス集団「かぐづち」のアーティストを始め、多くの出演者が県内外から集結。また、校舎内ではワークショップも実施され体験型の催しも用意されています。主催の森の実行委員会(桜縁会)は、去年も同じ旧穂積小学校を舞台に、教室の壁に芸術家が画を描く「Wall Art Festiva in Sakura」を開催し、2日間で計1000人以上を動員しました。秋の夜、日が沈んだ校庭で、炎の灯りに照らされた松の鑑賞はいかがですか。

[松の祭典]
 10月18日(土) 15:00~21:00
 出演:ゴロピカ(かぐづち)、橋田"ベッカー"正人、加藤士文日本舞踊、花柳流亜紀の会
 入場料:1,000円
 喜連川丘陵の里 杉インテリア木工館 さくら市穂積478
 問合せ 028-612-8132(担当/酒井)

